

海外安全対策情報（２０２４年１０月～１２月）

在バルセロナ日本国総領事館

１ 社会・治安情勢

１０月２９日、超大型低気圧が地中海沿岸を襲い、集中豪雨によって洪水が発生した結果、バレンシア州を中心に２３２名が死亡（※）したほか、多数の家屋が倒壊する等の甚大な被害をもたらした。

（※）政府発表によると、２月１９日時点、バレンシア州で２２４名、カスティージャ・ラ・マンチャ州で７名、アンダルシア州で１名の死亡が判明している。

２ 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）スペイン内務省が発表した最新の犯罪統計によれば、２０２４年中の同国内での刑法犯認知件数（サイバー犯罪を含む）は２４５万６，４１３件で、前年同時期と比べ０．３％の減少となった。

サイバー犯罪を除く州別の刑法犯増減率では、カタルーニャ州で０．１％、バレアレス州で０．６％と各々増加している。なお、バレンシア州では１月から９月までの間、増加傾向にあった刑法犯認知件数が、１０月以降に減少傾向へと転じ、最終的に１．５％の減少となった。

すりや置き引きと比較した場合、首絞め強盗のように被害者を負傷させる犯罪の発生は少ないが、機械式高級腕時計の着用者や単独行動者に対する強盗事案は依然として散見されることから、犯罪被害のターゲットとならぬよう注意が必要である（下記３「最近の邦人の被害事例」及び４「防犯対策」参照）。

（２）一般街頭犯罪のほか、スペイン内務省では、引き続きインターネット上でクレジットカードや銀行の暗証番号等の情報を盗み取る電子詐欺が近年特に増加しているとして注意を呼びかけている。クレジットカード情報や銀行の口座情報を安易にネット上でやりとりしない、不審なメールは開かず、安易にリンクをクリックしないなどの注意が必要である。

（３）各州及びバルセロナ市の２０２４年中の主要犯罪発生状況は以下のとおり。（スペイン内務省発表。増減率は前年同時期との比較）

●カタルーニャ州の主要犯罪発生状況（２０２４年１月～１２月）

	殺人	殺人未遂	傷害	誘拐	性犯罪	強盗	侵入窃盗	すり 置き引き	自動車盗 (単車含)
2024 年	69 件	284 件	4,277 件	14 件	4,404 件	24,733 件	25,324 件	168,500 件	8,543 件
増減率	-2.8%	+18.8%	+6.0%	+27.3%	+4.4%	-2.7%	-7.5%	-1.0%	+0.9%

●バルセロナ市の主要犯罪発生状況（２０２４年１月～１２月）

	殺人	殺人未遂	傷害	誘拐	性犯罪	強盗	侵入窃盗	すり 置き引き	自動車盗 (単車含)
2024 年	13 件	44 件	1,024 件	5 件	1,273 件	12,510 件	6,539 件	79,811 件	2,850 件
増減率	+8.3%	+2.3%	+8.1%	+66.7%	+3.9%	-8.5%	-13.4%	-6.8%	-10.1%

※ バルセロナ市では、２０２４年の一年間で１７５，８６７件の犯罪を認知しているが、うち約半数の７９，８１１件が「すり」及び「置き引き」である。

●バレンシア州の主要犯罪発生状況（２０２４年１月～１２月）

	殺人	殺人未遂	傷害	誘拐	性犯罪	強盗	侵入窃盗	すり 置き引き	自動車盗 (単車含)
2024 年	56 件	138 件	3,708 件	13 件	2,480 件	6,269 件	17,704 件	73,858 件	3,339 件
増減率	+64.7%	-16.9%	+12.3%	-18.8%	+4.0%	+1.6%	-4.4%	-4.8%	+2.5%

●バレアレス州の主要犯罪発生状況（２０２４年１月～１２月）

	殺人	殺人未遂	傷害	誘拐	性犯罪	強盗	侵入窃盗	すり 置き引き	自動車盗 (単車含)
2024 年	7 件	38 件	1,326 件	6 件	939 件	1,432 件	2,829 件	24,310 件	1,729 件
増減率	-12.5%	-9.5%	+2.0%	+50.0%	-5.2%	-5.7%	+5.2%	+5.7%	-5.6%

（４）邦人被害発生状況（カタルーニャ州、バレンシア州及びバレアレス州）

ア ２０２４年１月から１２月までの間、当館で認知した邦人被害に係る各種犯罪の合計は１７５件であり、うち約９割がバルセロナ市内及び同空港内（手荷物検査後の制限エリア内を含む）での被害であった。なお、新型コロナウイルス禍後の旅行者回復傾向もあり、２０２３年の同時期（１００件）と比較して、被害認知件数は大きく増加した。

イ 罪種別では、「置き引き」及び「すり（ケチャップすりを含む）」が最も多く、全体の８０％以上を占めている。被害場所については、以下のとおり（当館への届出に基づく集計結果）。

飲食店内 ２８．０％（特に、観光地直近のバルやファストフード店）
 路上・広場 １９．４％
 駅・電車内 １９．４％（バス停・バス車内を含む）
 空港内 １５．１％
 観光地 ６．５％

ウ 当館に被害の届け出を行わない邦人も多数いると考えられ、実際には上記の数

倍程度の被害が発生しているとみられる。

3 最近の邦人の被害事例

(1) 強盗

ア 路上を歩いていたところ、時価数百万円の機械式高級腕時計を一瞬のうちに強奪された（新聞報道）。

イ タ刻にサグラダ・ファミリア付近を散策していたところ、背後から突然羽交い締めになれ、ポーチを強奪された。

ウ サグラダ・ファミリア付近のベンチに腰を掛けていたところ、近付いてきた人物が突然両肩を押さえ付け、横に置いていた鞆を強奪された。

エ ピカソ美術館付近にて、金銭を出すよう脅されたことから、これを拒絶したところ、複数の男に囲まれて殴る蹴るの暴行を受けた。

(2) ひったくり

路上を歩いていたところ、キックボードに乗った若者が近付いてきて、あっという間に所持品をひったくられた。

(3) 置き引き

ア ファストフード店内で食事中、鞆を椅子の背もたれに掛けていたところ、気が付いたら盗まれていた。

イ レストラン店内で食事中、そばを通りかかった観光客風の女性に「美味しそうですね」等と声を掛けられ、対応していたところ、テーブル上に置いていた貴重品が盗まれていた。

ウ レストラン店内で一緒に食事をしていた友人に荷物の管理を任せてトイレに行った。5分後に戻ってきたところ、荷物が盗まれていた（友人も、スマートフォンに夢中で気が付かなかったと考えられる）。

エ バルセロナ空港内において、ベンチに荷物を置いた状態で5メートル先の充電スポットに行き、すぐに戻ったが、既に荷物が盗まれていた。

オ バルセロナ空港内で疲労から睡魔に襲われ、ベンチで一瞬うたた寝をしたところ、気が付いたら隣に置いていた鞆が盗まれていた。

カ バルセロナ空港内のショップにおいて、荷物を載せたカートから目を離したところ、貴重品入りの鞆が盗まれていた。

キ バルセロナ空港内のカフェにて食事中、椅子の背もたれに掛けていた鞆がいつの間にか盗まれていた。

ク バルセロナ空港内の搭乗カウンター付近で出発案内の電光掲示板を見ていたところ、真横においていたトランクと鞆がいつの間にか盗まれていた。

ケ バルセロナ空港内で、突然見知らぬ男性に話し掛けられたことから、相手をしたところ、スーツケースの上に置いていた鞆がいつの間にか盗まれていた。

(4) すり

ア 交通機関での移動中や買い物中、気が付かないうちに所持品から貴重品類が抜き取られていた。

イ 地下鉄の改札を通り抜けようとしたところ、若い男2名がぶつかってきて、そのまま横を通り抜けた。思いっきりぶつかられたので不審に思ったところ、ポシェットに入れていた貴重品が盗まれていた。

ウ 混雑した郊外電車に乗り込む際、男1名が列を横切り、体の前面にぶつかってきた瞬間、ウエストポーチのファスナーが開けられ、中に入れていた財布を盗まれた。

(5) ケチャップすり ※必ずしもケチャップを掛けられるとは限らない。

路上を歩いていたところ、男性に服が汚れていると声をかけられた。嘔吐物のような非常に不快な臭いであったことから、パニックに陥っていたところ、近くを通りかかった高齢男性がティッシュを渡してくれたので、服を脱いで汚れを拭き取っている際、地面に置いていたバックを盗まれた（ティッシュを渡した人物については、共犯者と思われる）。

(6) パンク盗

ア サグラダ・ファミリア近くの駐車場から車で出発した際、パンクに気が付いたことから、車を路肩に止めてタイヤを確認していたところ、車内に置いていた貴重品を盗まれた。

イ レンタカーで高速道路を走行中、一台の車が後ろから猛スピードで近付き、身振り手振りで路肩に車を止めるよう指示された。車を止めたところ、男が運転席に近付き、「後ろから煙が出ているから確認しろ」と言われ、車外に出た。その後、何かを言い残して現場から猛スピードで立ち去ったことから不審に思っていると、車内から貴重品が盗まれていることに気が付いた（車外で被害者の注意を引きつけている間、共犯者が貴重品を窃取したと考えられる）。

ウ グエル公園近くの駐車場から来るまで出発した際、二人乗りをした一台のバイクが近付き、「後輪がパンクしている」と言ってきた。同乗者と共に車外に出て、パンクの状況を確認した後、再び車内に戻った時には、センターコンソール付近においていたはずの貴重品入りポーチが盗まれていた（上記イ同様、車外で被害者の注意を引きつけている間、バイクに乗車していた人物が貴重品を窃取したと考えられる）。

4 防犯対策

窃盗犯は多くの場合、2～3名のグループで行動しており、予め役割分担（声を掛けて気を逸らす役、窃取する役、被害品を搬送する役、等）を決めたうえで、ターゲットを物色している。

国家警察及びカタルーニャ州警察は、窃盗被害防止のための啓発ビデオを作成しており、典型的な犯行手口を紹介しているが、いずれの場合も、

- ・ターゲットが所持品から目を離した一瞬の隙を突いている。
- ・ターゲットの気を逸らせるため、意図的に声を掛けている、もしくはぶつかっている。

ことが分かる。よって、見知らぬ人が突然「声を掛けてきた時」や「ぶつかってきた時」は、「犯罪発生の予兆」と考える方が良い。

なお、邦人旅行者の多くが、日焼け防止用のつば広帽を着用している姿を目にするが、当地では非常に目立つ格好であり、窃盗犯に対して自身の存在を遠くまでアピールすることにも繋がりがかねないので、特段の注意を要する。

【国家警察】

https://www.policia.es/_es/colabora_participacion_video_planturismoseguro_es.php

【州警察】

すり <https://www.youtube.com/watch?v=XnhnkKeR7o0&t=8s>

ケチャップすり <https://www.youtube.com/watch?v=eyqHB1LkJ20>

置き引き① <https://www.youtube.com/watch?v=Lyz7xoUophs>

置き引き② <https://www.youtube.com/watch?v=0nz0kdi0D28>

置き引き③ https://www.youtube.com/watch?v=ZR_d1Uvky5s

(1) 置き引き

ア バルセロナ空港ターミナル内、レンタカー乗り場

- 深夜・早朝の仮眠は絶対に行わない（起きておくこと）。
- 数メートル先のゴミ箱や充電スポットに行く際も、荷物から絶対に目を離さない。
- タクシーやレンタカーに乗り込む際は、特に荷物の行方に注意する。

イ ランブラス通り沿線、グラシア通り沿線

（特に、観光地周辺のレストラン、ファストフード、カフェ店内）

- 食事中は、椅子の背もたれに荷物を掛けない。
テーブルの上に、スマートフォン等の貴重品を置かない。
スマートフォンの操作に夢中にならない。
通路や足下に荷物を置かない（常時視界に入る場所に置く）。
通行人が行き交うテラス席は危険。
店内でも、客を装った犯人が出没。

ウ サグラダ・ファミリア周辺

- 写真撮影に夢中にならない。

→ 写真撮影を依頼された時は要注意。

エ ホテルのロビー

→ 空港同様、荷物から絶対に目を離さない。

(2) すり

ア 発生の約6割が、地下鉄車内と駅構内で発生しており、特に観光地と観光地を結ぶ路線や駅では要注意。

→ サグラダ・ファミリア駅、パセオ・デ・グラシア駅、リセウ駅、パレル駅、エウロパ・フィラ駅、シッチェス駅を含む海岸沿いの駅

イ 地下鉄やバス車内では、混雑時に多発（身動きがとれない状況で囲まれる。自身の前後に、上着を腕に掛けた人物が立っている時は要警戒）。

→ 通勤時間帯の混雑時に地下鉄やバスで移動しない。

（特に、トランク等の大きな荷物を抱えて移動しない）

→ 地下鉄については、混雑率が比較的低い中間車両を利用する。

ウ 地下鉄駅構内では、券売機前と改札で多発。

→ 人が話しかけてきた時、ぶつかってきた時は要注意。

エ グエル公園内外、ピカソ美術館周辺の細街路、ボケリア市場

(3) ケチャップすり

実際にケチャップを掛けられることは少ないが、異臭を放つ液体を掛けられることが多い（手にした荷物を地面に置き、服を脱がせるため）。第一の人物が、「鳥の糞が落ちてきた」等と言って被害に気が付かせ、パニックとなっている間に、第二の人物がティッシュペーパーを持って近付いてくる。ティッシュペーパーで汚れを落としている間に、地面に置いた荷物を窃取される。

・バルセロナ空港内 バス乗り場付近

・エウロパ・フィラ駅

・カタルーニャ広場周辺、凱旋門周辺、サグラダ・ファミリア周辺

(4) ひったくり

シウタ・ベリャ地区に集中（リセウ駅周辺の細街路）

→ なるべく道路の端（建物側）を歩き、壁側の手で荷物を持つようにする。

(5) パンク盗

車のパンク等を口実に、第一の人物が運転手を車外へと出させ、注意を引きつけている間に、第二の人物が助手席側から車内の荷物を窃取する。

・レンタカーがターゲットにされることが多い。

・観光地周辺の駐車場やホテルの駐車場から出庫した直後に、通行人から「パンクしている」等と声を掛けられる。

・高速道路を走行中、「後部から煙が出ている」等と併走車両が声を掛け、路側

帯に駐車させる。

→ 車外に出るよう促されても、対応しない。

車外に出る必要が生じた場合は、確実に施錠をする。

5 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 2024年中の発生はなし。

(2) スペイン内務省は、テロ警戒レベルを「レベル4（高い脅威）」（全5段階）を維持しており、治安当局によるテロ対策が強化されている。

(3) スペインにおけるテロ情勢詳細については、以下リンク（「スペインにおけるテロ・誘拐情勢」）参照。

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_161.html

5 誘拐・脅迫事案

2024年中の邦人被害にかかる事件は認知していない。

6 日本企業の安全対策に対する諸問題

2024年中の日本企業を対象とした各種事件や安全対策にかかる諸問題は認知していない。